

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 キチジ

学名 *Sebastolobus macrochir*

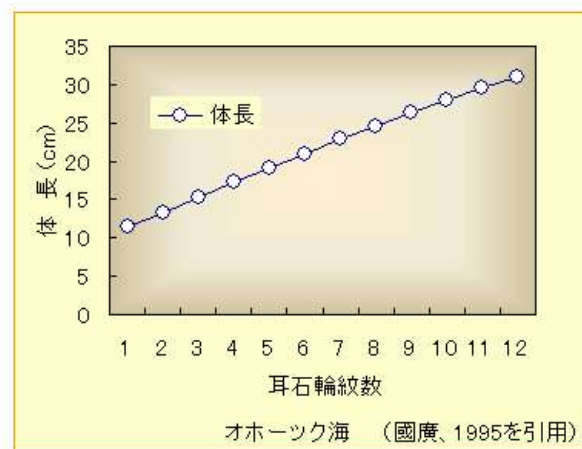
系群名 オホーツク海系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 不明
- 産卵期・産卵場： 産卵盛期は春季（4～5月）、産卵場は不明
- 索餌期・索餌場： 北見大和堆東側と知床半島周辺の大陸棚斜面に分布、主な分布水深は300～1,200m
- 食性： 魚類、クモヒトデ類など
- 捕食者： 不明

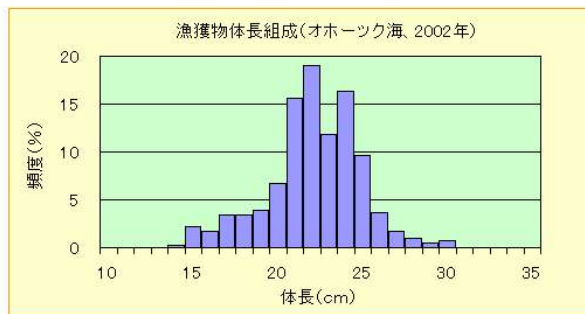
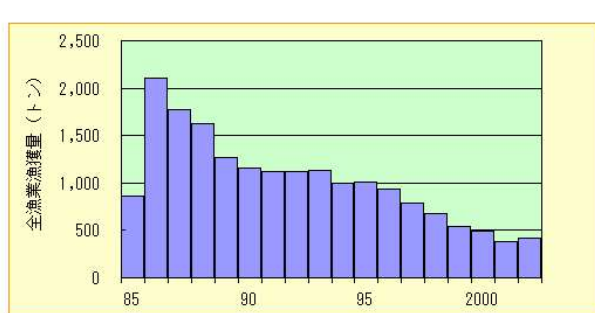


漁業の特徴

延縄、刺し網などの沿岸漁業と沖合底びき網漁業（沖底）により周年漁獲されている。近年の漁獲量の大半は、沿岸漁業によるものである。

漁獲の動向

オホーツク海と根室海峡における沖底と沿岸漁業の漁獲量は単調な減少傾向にある。1986年に2,000トンを超えていた漁獲量は、1994年には1,000トンを割り込み、2001年は377トンまで減少した。2002年の漁獲量は422トン（暫定値）と、2001年に比べやや増加した模様である。1996年以降、オホーツク海においてロシア漁船が漁獲しているとみられるが、漁獲実態の詳細は不明である。

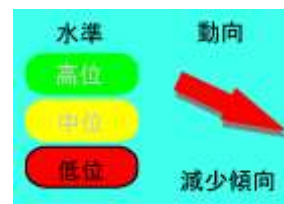


資源評価法

年齢と体長の関係が不明であり年齢別漁獲尾数の算出が困難であるため、漁獲量の年変化と漁獲物の体長組成から資源を評価した。漁獲量の集計には、沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計年報、及び北海道水産現勢元資料を用いた。また、延縄の漁獲物から採集した標本と銘柄別水揚げ記録を用いて、漁獲物の体長組成を推定した。

資源状態

各海域の漁業種類別の漁獲量データが揃う1985年以降の過去18年間（1985～2002年）の漁獲量の値から、現在の資源水準は低位と判断された。また、1998年以降5年間の漁獲量の変化から、資源動向は減少と判断された。2002年の漁獲物では、豊度の高い年級群の出現は確認できなかった。オホーツク海系群の漁獲物は太平洋側に比べて魚体が全体に大きく、漁獲物中に占める成魚の割合は比較的高いと考えられるが、網走水試によれば近年は小型魚の割合が増えているとされる。2002年の漁獲量は、オホーツク海と根室海峡のいずれの海域においても、2001年をわずかに上回っており、資源動向が変化した可能性もあるが、まだ1年のみで、明確でない。



管理方策

漁獲量の変化から資源状態を判断し、漁獲量に適切な係数を掛けた値をABCとする。資源回復を念頭に置いた場合、現状の漁獲圧より下げる必要がある。資源回復のための係数は0.8とした。資源の減少傾向が止まった可能性はあるものの、現在の資源が極めて低い水準であることに変わりはない。未成魚を成熟まで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効に働くと期待される。従って今後とり得る方策としては、漁獲努力量削減はもちろんであるが、加えて若齢魚の保護対策として、漁獲物のサイズ制限や、生育場の禁漁措置が必要と考えられる。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	320トン	0.8Cave2-yr	-	-
A B C target	256トン	0.8ABC limit	-	-

資源評価のまとめ

- 各海域において、漁獲量は単調な減少傾向にある
- 現在の資源状態は極めて低い水準にある
- 2002年の漁獲物では、豊度の高い年級群の出現は確認できない

資源管理方策のまとめ

- 漁獲努力量の削減が必要
- 未成魚を成熟まで獲り残し、再生産に振り向けることが、資源状態の改善に有効に働くと期待される

資源評価は毎年更新されます。